

小学校外国語科スピーキング・パフォーマンス評価に関する 実践研究

岡崎 浩幸¹・清水 義彦²・押田 正子³

Practical Research on Speaking Performance Assessment in Elementary School Foreign Language

Hiroyuki OKAZAKI, Yoshihiko SHIMIZU and Masako OSHIDA

【摘要】

本研究の目的は2つある。1つ目は第3筆者の勤務校の小学校外国語科で実施されたスピーキング・パフォーマンス評価（スピーキングテスト）が授業における学習活動や海外交流を通して培った児童のスピーキング力を測るのに適しているのかを明らかにすることである。2つ目は今回の試みが児童の今後の学習や英語によるコミュニケーションへの意欲向上に寄与するのかを検討することである。テストは3つの単元で学習したことを基に、3つのインタビュータスク活動を用いてテストを行った。児童は2人1組で3か所を回り面接を受けた。態度、流暢さ、正確さ、応答、質問の5つの観点から採点が行われ、結果を妥当性、信頼性、実用性、波及効果の面から分析検討した。その結果、テストの妥当性、信頼性、実用性が確保されていることと、波及効果として今回の試みが児童の学習及び英語コミュニケーションへの意欲向上に影響を与えたことが明らかとなった。今回のような評価の場を定期的に設定することは、児童が英語でコミュニケーションする意欲を高める機会となる可能性を示唆している。

キーワード：スピーキングテスト、パフォーマンス評価、小学校外国語科、台湾交流授業

Keywords: speaking test, performance assessment, elementary foreign language, exchange lessons with Taiwanese elementary school

1 研究の背景

令和2年度4月より、新学習指導要領が完全実施となり小学校中学年で外国語活動が始まり、高学年で外国語科が教科としてスタートした。小学校外国語科は、これまでの外国語活動で目指していた「外国語への慣れ親しみ」から、中学校や高等学校での外国語科の指導と同様に、技能の育成へと移行することとなった(2018, 岩下)。それに伴い、これまで行われてきた振り返りシートや授業での見取りによる評価に加え、パフォーマンス評価を取り入れることが推奨されている(文部科学省, 2017)。

これまで小学校教員の多くは外国語活動の指導に不安を抱えてきた。今回の改訂により、技能の評価

が加わり、教師の英語指導に対する負担感や不安感は一層高まることが予想される。

本研究では小学校教員の負担感や不安感を軽減し、取り組みやすいテストの作成を目指し、第3筆者の協力を得てスピーキング・パフォーマンス評価（スピーキングテスト）を実施した。今後持続可能なスピーキングテストに改善し、児童の学習活動及び英語によるコミュニケーションへの意欲向上に波及効果をもたらすために、今回試みたテストを妥当性、信頼性、実用性、波及効果の観点からその有効性を検証する。

2 先行研究

テストに関連する妥当性、信頼性、実用性、波及効果についてそれぞれの特徴を簡潔に説明する。

2.1 妥当性

¹富山大学大学院教職実践開発研究科

²富山県立大学

³滑川市立田中小学校

妥当性とはそのテストが測るべき能力を測っているかということである (Hughes, 2003; Nation, 2013)。語学教育の分野では中心となる概念である (Fulcher & Davidson, 2007)。小学校英語における「話すこと」「やり取り」を測る際に、妥当性があるのは実際にそれらに取り組みさせているときのみである。

妥当性には様々な種類・定義が存在する。他の研究 (渡慶次, 2014 など) を参考に、本研究ではテストの内容が測定すべき事項を含んでいるかどうかという内容妥当性 (content validity) を検証する。さらに、言語能力に対する理論的な概念の妥当性を測る構成概念妥当性 (construct validity) についても検討する。

内容妥当性はテストの項目あるいはタスクが測ろうとしていることと一致しているかどうかである。また、言語教育プログラムの目標が育成したい言語の技能や言語の働きをシラバス等で示されている場合、内容妥当性はテストを通して引き出す言語とシラバスに示される目標を比較することで吟味することが可能となる (Underhill, 1987)。静 (2002) は授業で指導した内容がテストの項目あるいはタスクに忠実に反映しているかどうかの確認の大切さを強調している。さらに、テスト内容が授業で行った活動とバランスよく対応しているかどうかはサンプリング (取捨選択) の良し悪しによって決まるとも述べている。

構成概念は直接観察できない能力を概念化したもので (笠原・佐藤, 2017)、構成概念妥当性は測定内容や方法が言語を構成する概念や理論と一致しているかを問う。教師がテストで測りたい力 (構成概念) が測られているかどうか (小泉他, 2017) を指している。

2.2 信頼性

信頼性とは同じ児童に同じテストを別の機会に受けさせてもほぼ同じ結果になるということである。信頼性には児童や採点者、テストが実施される環境、テストそのものに関する信頼性がある。

テストを受ける児童に関して、身体的精神的な要因が信頼性に影響を与える (Brown, 2010)。採点者に関しては評価者間信頼性、評価者内信頼性があり、不明瞭な基準設定によって信頼性が損なわれる場合がある (Brown, 2010)。

Nation(2013)は信頼性が保たれているかどうかを確認する方法として次の6つを挙げている。

- 1 学習者が学んだ内容を測るのに適したテスト項目が十分 (最低 30 個) 確保されているか。
- 2 学習者がテストの質問形式とその答え方に慣れているか。
- 3 テストの指示がすべての受験者に同じように明確に伝わっているか。
- 4 どの教師が採点しても同じ結果になるようにルールが決められているか。
- 5 テストを受ける環境が同じ条件で整えられているか。
- 6 学習者は真剣に取り組んでいたか。

2.3 実用性

実用性とは実際にテストを実施できるかどうかに関することである。小学校という環境や英語が専門でない小学校教員がこのテストを実施できるかということになる。Nation(2017)以下の3つを基準として提示している。

- 1 テストの作成・採点が容易であること
- 2 児童がテストの内容やタスクについて理解しやすいこと (取り組みやすいこと)
- 3 テストが授業時間内に収まること

2.4 波及効果

テストの波及効果 (backwash effect) とはテストが学習や指導に及ぼす効果のことである。児童がテストに取り組むことで今後の学習にどのような効果を与えるについてである。波及効果はプラスとマイナスがある。プラスの波及効果を生み出す方法として、Hughes(2003)はテストで取り組むタスクはできるだけ本物に近く (authentic)、そのパフォーマンスを直接測ることを奨めている。またテストの内容と学習到達目標が一致していることの重要性を強調している。静(2002)は学習者の能力の中で促進させたい側面を、促進したい方法でテストに出題することを推奨している。またHughes(2003)はプラスの波及効果をもたらすために、学習者にテスト内容、形式などを伝えることを勧めている。

2.5 研究課題

小学校外国語科に関するスピーキングテストの作成・実施についての研究はまだ多くない。本研究で

は今回試みたスピーキングテストが単元で目指した児童のスピーキング力を測定するのに適したものだったのか、また今後の授業や学習活動にどのような影響を与える可能性があるのかについて検討する。妥当性、信頼性、実用性、波及効果の面から検証する目的で以下の研究課題を設定する。

- RQ1 テストの妥当性はどの程度確保されていたか。
- RQ2 テストの信頼性はどの程度確保されていたか。
- RQ3 テストの実用性はどの程度確保されていたか。
- RQ4 テストの波及効果はどの程度あるのか。

3 研究方法

3.1 実際の授業 (5年生)

令和2年度1学期末、第3筆者は第1, 2筆者の協力を得て、児童の到達度を測る評価方法の一環としてスピーキングテストを作成実施した。テスト前に行われた授業回数は21回で、内訳はUnit 1 (表1), Unit 2 (表2), Unit 3 (表3) それぞれ5回, 8回, 8回である。教科書はNEW HORIZON Elementary English 5を使用し、授業は校外外国語担当教員(第3筆者)とALTのティームティーチング形式で行われた。Unit 1とUnit 3の最終時にスカイプを活用し、台湾との交流授業(表4, 表5)も行われた。台湾との交流授業とは、第1, 2筆者が2015年に富山県内の公立学校で開始したアジア太平洋海外交流学習という名称のプロジェクトであり、滑川市立田中小学校は2018年から参加している。同校種の海外交流校を持ち、児童が体験的に英語を学ぶ意義と英語コミュニケーションの楽しさに気づく授業活動である。

表1 Unit 1 Hello, friends の授業内容

<p>★単元目標：名前や好きなもの・ことを伝え合うことができる</p> <p>☆ターゲットセンテンス： ・What ○○ do you like? I like △△. ・How do you spell your name?</p> <p>★主な学習内容 ・ターゲットセンテンスを歌・チャンツ・アクティ</p>

<p>ビティで練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物、スポーツ等の単語をアクティビティで練習 ・フォニックスチャンツ ・自分の名前を書く練習 ・あいさつと自己紹介のフレーズ練習 ・クラス内でインタビュー活動” What ○○ do you like?” ・外国の名前について、教科書やALT作成のビデオ視聴で理解を深める
--

表2 Unit 2 When is your birthday?の授業内容

<p>★単元目標：誕生日やほしいものを伝え合うことができる</p> <p>☆ターゲットセンテンス： ・When is your birthday? My birthday is ～. ・What do you want for your birthday? I want ○○.</p> <p>★主な学習内容 ・1月～12月の英語を歌・チャンツ・アクティビティで練習 ・1日～31日の英語を歌・チャンツ・アクティビティで練習 ・ターゲットセンテンスを歌・チャンツ・アクティビティで練習 ・児童が「ほしい物」の単語練習・フォニックスチャンツ ・アルファベット大文字を書く練習・外国の行事の映像視聴 ・クラス内で誕生日とほしいものを聞き合うインタビュー活動</p>
--

表3 Unit 3 When is your birthday?の授業内容

<p>★単元目標：時間割ややりたい職業を伝え合うことができる</p> <p>☆ターゲットセンテンス： ・What do you have on ...days? I have ～ on ...days. ・What do you want to be? I want to be a ～.</p> <p>★主な学習内容 ・ターゲットセンテンスを歌・チャンツ・アクティ</p>
--

ビティで練習

- ・曜日・時間割の英語を歌・チャンツ・アクティビティで練習
- ・職業の英語を歌・チャンツ・アクティビティで練習
- ・アルファベット小文字を書く練習
- ・クラス内でなりたい職業を聞き合うインタビュー活動

表 4 台湾交流授業における英語のやりとり (1)

☆ (Unit1 第5時)

ペアで以下の会話をする。

A: Hello. My name is ~. Nice to meet you.

B: Hello. My name is ~. Nice to meet you, too.

A: I like ~, ~ and ~. Do you like ~?

B: Yes, I do./No, I don't.

A: I see./OK./Nice. Thank you. See you.

B: See you. *囲み部分 AB 役割交代

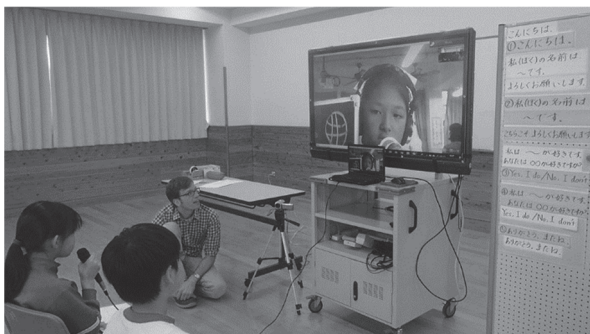


表 5 台湾交流授業における英語のやりとり (2)

☆ (第5時)

①グループで以下の会話をする。

A: What do you have on ○days?

B: I have ~, ~, ~, ~, ~ and ~ on ○ days.

A: OK./I see. Thank you. ※AB 役割交替

②ペアで以下の会話をする

A: What subject do you like?

B: I like ~.

A: OK./I see./Nice./Me, too. Thank you.

※AB 役割交替

3.2 テスト細目

今回のテスト細目は対象者, 目的, 測定する能力, テスト内容と実施手順, 採点方法 (観点, 基準) からなっており, それぞれについて説明する。

3.2.1 対象者・目的・測定する能力

テストの対象者は滑川市立田中小学校に在籍する5年33名 (男子12名, 女子21名) である。第3筆者は, 令和2年度1学期, このクラスの外国語科の授業を担当した。第3筆者は児童の実態を次のように述べている。児童はALTとの英語学習を楽しんでおり, 知的好奇心が旺盛で新しい英語表現を身に付けることに意欲と喜びを感じている。また, 授業でのコミュニケーション活動や台湾交流授業を通して, 英語を通して人と会話をしたり, 新しい情報を得たりすることに楽しさを感じている。その一方で, 次々と出てくる新しい単語やフレーズを覚えることに難しさを感じている児童も見られる。

スピーキングテストの目的は以下の通りである。

・スピーキング活動において目指す児童の姿がどの程度実現されているかを把握 (児童の強みや弱いところ) する。

・テストを通して児童の英語学習への意欲向上と話すことや取りの力が高まるように促す。

測定する能力はそれぞれの単元 (Unit) の目標を反映し次のように3つ設定した。

- ・好きなものを伝え合うことができる
- ・誕生日を伝え合うことができる
- ・時間割を伝え合うことができる

3.2 テスト内容と実施手順

今回取り組んだテストは3部からなっている。テストは教室の隅を利用し3か所に分かれて同時に実施された。児童は2人1組になり, 図1のように, 3か所を回りそれぞれのテスト (テスト1, 2, 3) を受けた。



図1 スピーキングテストの様子

次にテスト内容と手順を説明する。

テスト1は教科書Unit1で学習したことを基に表6(児童用)の流れで行われた。Aは教師(第3筆者)で、Bは児童である。

最初に、教師から質問が行われるが児童は what の後にどの単語が来るか知らされていないため、fruit, color, animal, sport を聞き分けた後、単語に応じて自分の好きなものを答えることになる。

表6 テスト1の内容と形式

<p>※先生から、フルーツ fruit, 色 color, 動物 animal, スポーツ sport のどれかを聞かれます。</p> <p>A:「あなたは、何の〇〇が好きですか?」 What 〇〇 do you like?</p> <p>B:「私(ぼく)は、～が好きです。I like ～.</p> <p>A:「そうなんだ。/わかりました。/私も。本当に? ありがとう。」 OK./I see./Me, too./Really? Thank you.</p> <p>あなたから聞いてみましょう。</p> <p>B: What 〇〇 do you like?</p> <p>A: I like ～.</p> <p>B: OK./I see./Me, too./Really? Thank you.</p>
--

次に、児童から教師に質問がされる。児童は fruit, color, animal, sport あるいはそれ以外から1つを選び質問し、教師はその質問に答える。児童は教師の回答を聞いて、OK./I see./Me, too./Really? から1つを選び反応する。

テスト2は教科書Unit2で学習したことを基に表7(児童用)の流れで行われた。Aは第2筆者で、Bは児童である。

表7 テスト2の内容と形式

<p>A:「あなたの誕(たん)生(じょう)日(び)はいつですか?」 When is your birthday?</p> <p>B:「わたし(ぼく)の誕生日は、〇月〇日です。」 My birthday is ～.</p> <p>A:「わかりました。ありがとう。」 I see./OK. Thank you.</p> <p>あなたからも聞いてください。</p> <p>B: When is your birthday?</p>
--

<p>A: My birthday is ～.</p> <p>B: I see./OK. Thank you.</p>

テスト3は教科書Unit3で学習したことを基に表8(児童用)の流れで行われた。AはALTで、Bは児童である。台湾との交流授業でお互いの時間割を伝え合った内容をALTに伝える活動である。そのあと児童が質問し、ALTは台湾の時間割を答える。

表8 テスト3の内容と形式

<p><テスト3></p> <p>※台湾交流での担当曜日の時間割を伝え合う。</p> <p>A:「〇曜日は、何(の教科)がありますか?」 What do you have on 〇days?</p> <p>B:「〇曜日は、～と～と～と～と～と～があります。」 I have ～, ～, ～, ～, ～, and～ on 〇 days.</p> <p>(I have ～. I have ～. I have ～. I have ～. I have ～. And I have ～ on 〇days.)</p> <p>A:「わかりました。ありがとう。」 I see./OK. Thank you.</p> <p>あなたからも聞いてみましょう。</p> <p>B:「〇曜日は、何(の教科)がありますか?」 What do you have on 〇days?</p> <p>A:「〇曜日は、～と～と～と～と～と～があります。」 I have ～, ～, ～, ～, ～, and～ on 〇 days.</p> <p>(I have ～. I have ～. I have ～. I have ～. I have ～. And I have ～ on 〇days.)</p> <p>B:「わかりました。ありがとう。」 I see./OK. Thank you.</p>

3.3 採点方法

今回テストでは採点の観点を態度面とスピーキングスキル面に分けた。態度を相手の方を見て話す際に必要な「アイコンタクト」と「声の大きさ」を基に、表9のように、両要素が整っている場合は2点、どちらかが不足している場合は1点、両方不足している場合は0点とした。

スピーキングスキル面は「流暢さ」「正確さ」「内

容」に分け、さらに内容を今回は「応答」と「質問」に分け採点した（表 10, 11, 12, 13）。点数はおおむねできていれば 3 点、やや不足した面があれば 2 点、ほとんどできていない場合は 1 点として採点した。

表 9 「態度」採点規準

点数	評価規準
2	相手の方を見て、伝わる声の大きさで話す。
1	「相手の方を見て話す」「伝わる声の大きさで話す」の <u>どちらか1つ</u> ができる。
0	どちらもできていない。

表 10 「流暢さ」採点基準

点数	評価規準
3	自然なやりとりができ、ほとんど沈黙がない。
2	やり取りの最中に数回沈黙があったが、なんとか伝え合うことができる
1	沈黙が長すぎて、十分なやり取りにはならない。

表 11 「正確さ」採点基準

点数	評価規準
3	ほとんどの単語やフレーズを正しい発音で話す。
2	単語やフレーズにいくつか間違いはあるが、伝え合うことができる。
1	言えない単語やフレーズが多く、十分に伝わっていない。

表 12 「応答」採点基準

点数	評価規準
3	質問を理解し、ほぼ自然に答えることができる。
2	質問を理解し、不備な面があるがなんとか答えることができる。
1	質問に合った答えになっていないか、答えることができない。

表 13 「質問」採点基準

点数	評価規準
3	相手に通じる質問ができる。
2	たどたどしいところもあるが、なんとか相手に質問ができる。
1	ちがう質問をするか、質問ができない。

4 結果と考察

より良いテストを作成するためにはテストの信頼性、妥当性、実用性、波及効果などについて検討することが必要である。最初に表 14 と図 2 をもとにテスト全体について考察を行い、その後それぞれの観点から考察を加え検討する。

3 つのテストの関連性について明らかにするために、それぞれの小計（14 点満点）について分散分析を行った。その結果、テストの違いによる主効果 ($F(4, 64)=3.44, p<0.05$) が見られた。3 つのテスト間に有意差はあったものの、Bonferroni 法による多重比較の結果、3 つのテストのいずれの間にも有意差が見られなかった。よって単元によってテスト内容が異なるものの、3 つのテストには一貫性があったと判断できる。

表 14 スピーキングテスト結果・記述統計

	態度		流暢さ		正確さ		応答		質問		小計(14)
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	
テスト1	1.97	0.17	2.73	0.45	2.70	0.46	2.76	0.43	2.76	0.43	12.91
テスト2	1.88	0.33	2.88	0.33	2.79	0.41	2.85	0.36	2.48	0.78	12.88
テスト3	1.97	0.17	2.55	0.56	2.39	0.55	2.76	0.34	2.64	0.59	12.30

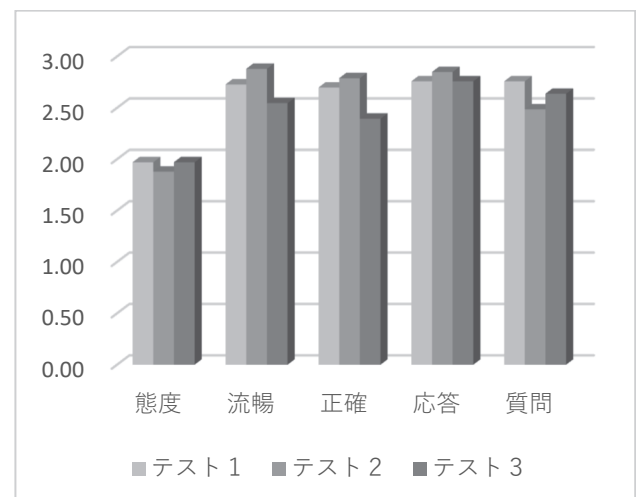


図 2 観点別分布

図 2 からわかるように、観点「態度」「応答」においてもほとんど差がなく、多重比較でも上記と同等の結果となり、有意な差はみられなかった。ただ「流暢さ」において、Bonferroni 法による多重比較の結果有意な差が見られ、テスト 3 がテスト 2 より有意に低い結果となった($F(2, 64)=6.20, p<0.01$)。観点「正確さ」においても、テスト 3 がテスト 1, 2 よりも有意に低い結果となった($F(2, 64)=8.54, p<0.01$)。以上の結果より、テスト 3 が他のテストよりも難易度がやや高かったことが予測される。原因としては、テスト 3 の質問「What do you have on ○days?」に対する応答「I have ~, ~, ~, ~, ~, and ~ on ○days.」で、曜日の科目名を全て表現することに困難を感じた児童がいたためであると考えられる。

観点「質問」において、Bonferroni 法による多重比較の結果、テスト 1 とテスト 2 の間に有意傾向があり($F(2, 64)=3.09, p<0.1$) テスト 2 はテスト 1 よりやや低い結果となった。テスト 2 の質問「When is your birthday?」において「When」や「your birthday」の英語表現が 5 年生で初めて出てきたため、十分に定着していない児童が若干名(6 名)いたことが原因であると考えられる。

4.1 妥当性

内容妥当性とはテストで用いられているタスクや質問内容が測りたい内容を含んでいるかどうかということである。今回の試みでは 1 学期に扱われた教科書の Unit 1, 2, 3 に沿って指導された内容をもとに、テストのタスクや質問内容が作成された。静(2002)が強調するように「指導した内容をテストの項目やタスクに反映されている」ことから、内容的妥当性は高いと言える。さらに、Unit1 の 5 時目と Unit3 の 5 時目では台湾交流授業で実際に質問し合った内容(Do you like ~? What do you have on ~days?)をテストで使用したため、児童にとってすでに取り組んだ内容と同じであったので困難を感じる児童は少なかったのではないと思われる。理想としては授業で扱った内容のすべてをテストに出題すべきであるが、実用性の観点から今回児童に身に付けてほしい項目を 3 つに絞り出題した。

構成概念妥当性は教師が測りたい力(構成概念)が測定されているか(小泉他, 2017)である。今回測りたかった力は 3.1 で示した以下の力であり、実

際のテストに以下 3 つのことが反映されていたので構成概念妥当性も確保されていたといえるであろう。

- ・好きなものを伝え合うことができる
- ・誕生日を伝え合うことができる
- ・時間割を伝え合うことができる

4.2 信頼性

クロンバック α は内部的一貫性を示しており 0.89 で採点者間信頼性は確保されたといえる。表 15 からわかるように、テスト間の相関係数も強い相関あるいは中程度の相関があるため、本テストは信頼性が確保されていたといえる。

表 15 各テストの間の相関係数

テスト	相関係数
テスト 1 とテスト 3	0.66
テスト 1 とテスト 2	0.66
テスト 2 とテスト 3	0.51

4.3 実用性

Nation(2017)の 3 つの基準について検討する。

1 つ目の基準は「テストの作成・採点が容易であること」であった。作成は初めてであったため、第 3 筆者の案をもとに第 1 筆者と数回のやり取りを通してテストと採点基準の作成を完了したが今後はこのフォーマットを使えば時間と労力は短縮軽減できると思われる。採点は 3 者間で大きくぶれることなく授業時間内に終了した(4.2 参照)。

2 つ目の基準は「児童がテストの内容やタスクについて理解しやすいこと(取り組みやすいこと)」ことであった。4.1 の妥当性でも述べたように、テスト内容が各単元で取り組んだ活動とほぼ同じであったこととテスト前に児童用評価規準を示してあったため、戸惑うこともなく取り組んだと考えられる。3 つのテストの得点率もそれぞれ 92.2%, 91.0%, 90.7% で 9 割を超えていることからわかる。

3 つ目の基準は「授業時間内に収まること」であったが 45 分以内に終了することができた。このような評価活動を單元ごとに行うことは可能であろう。

4.4 波及効果

4.4.1 今回の取組について 今学期の流れ

Appendix1 は、東京書籍の年間指導計画に加筆したものである。この計画をもとに授業を進めている。

ハイライトの4か所は、「台湾交流授業」を指す。これは、平成30年度から台湾・高雄市立光華国民小学校5年生と進めているリアルタイムの英会話授業である。英語授業で扱った言語材料を実際に外国人に使ってみる機会として、年間計画に4回組み入れている。スカイプを通して双方の5年生同士が1対1で英会話し、ほかの児童はその会話を聞き空欄を埋めるリスニング活動としている。令和2年度は、タブレット6台を使い、5、6人のグループでの英会話活動に取り組んでいる。今回のスピーキングテストは、7月10日の第2回の海外交流学習の後に実施した。

4.4.2 パフォーマンス評価の方法

今回のスピーキングテスト実施後、児童が自由に感想を記述した。その後、すべてのコメントを無料ソフトウェア「KH Coder v.2.00f」にかけ、定量的に分析した。有効回答数は33であった。図3が示すように、対象となった文は105文、総抽出語数は1113語でそのうちの398語が共起パターン(相関)の分析対象となった。この抽出作業はすべてソフトウェアが行った。データを分析する設定は図3、図4の通りである。単語の最小出現回数は2回以上とした。品詞は、ほぼすべてを対象とした。そして、この設定は筆者らが行った。

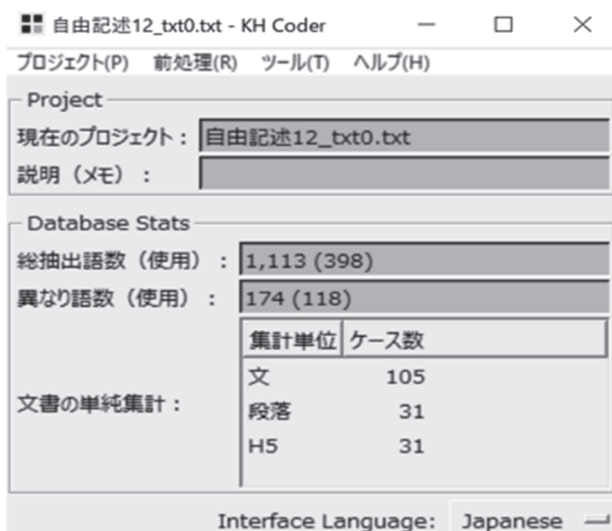


図3 KH Coder の設定 1

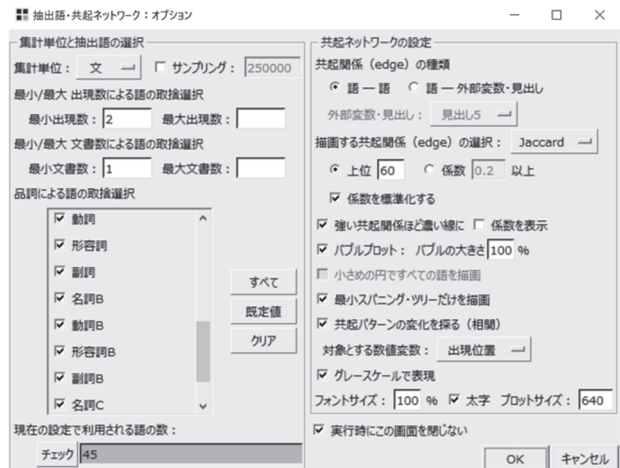


図4 KH Coder の設定 2

4.4.3 結果と考察

以下の図5が、今回のスピーキングテスト実施後、児童の自由記述を KH Coder v.2.00f で定量的に分析した結果である。この図5は、2回以上出現した単語の相関を示した共起ネットワークである。図5の右側にある通り、円の大きさが出現回数の頻度を表し、大きなものほど出現した回数が多かった単語ということになる。また、色が濃いほど単語同士に高い相関があることを示す。加えて、強い共起関係にある単語同士ほど濃く太い線で結ばれている。今回は、単語同士の相関を見やすくするため相関が強いものを KH Coder が整理しまとめた最小スパニング・ツリーだけを描画した。今回は、事後の感想であったが、分析結果は自動的に「現在形」で表示される。また、「パフォーマンステスト」、「誕生日」という単語がそれぞれ分解されて表記されたため、図5の中では、児童が書いた「パフォーマンステスト」を「スピーキングテスト」に書き直した。また、「誕生日」と書かれた部分を「バースデー」と置き換えてコンピュータ処理した。この図5を見ると、上部右寄りに出現頻度が高く相関が強いことを表す大きな円が5つ並んでいる。これをつなげると、「英語で上手にバースデーを言うことができた」という感想が多かったことが読み取れる。自分の誕生日を言うことが今回の評価ポイントの1つであった。誕生日に関して、「まちがえた」、「かんだ(言いよどんだ)」と書いた児童もいたことが図5からわかるが、それ以上に「スムーズ」に回答できたと記述した児童が多かったことが、色と線の太さでわかる。一方、今回の評価の2つ目のポイントである「時間割」に関しては、「言うのが難しかった」と思っていたことが

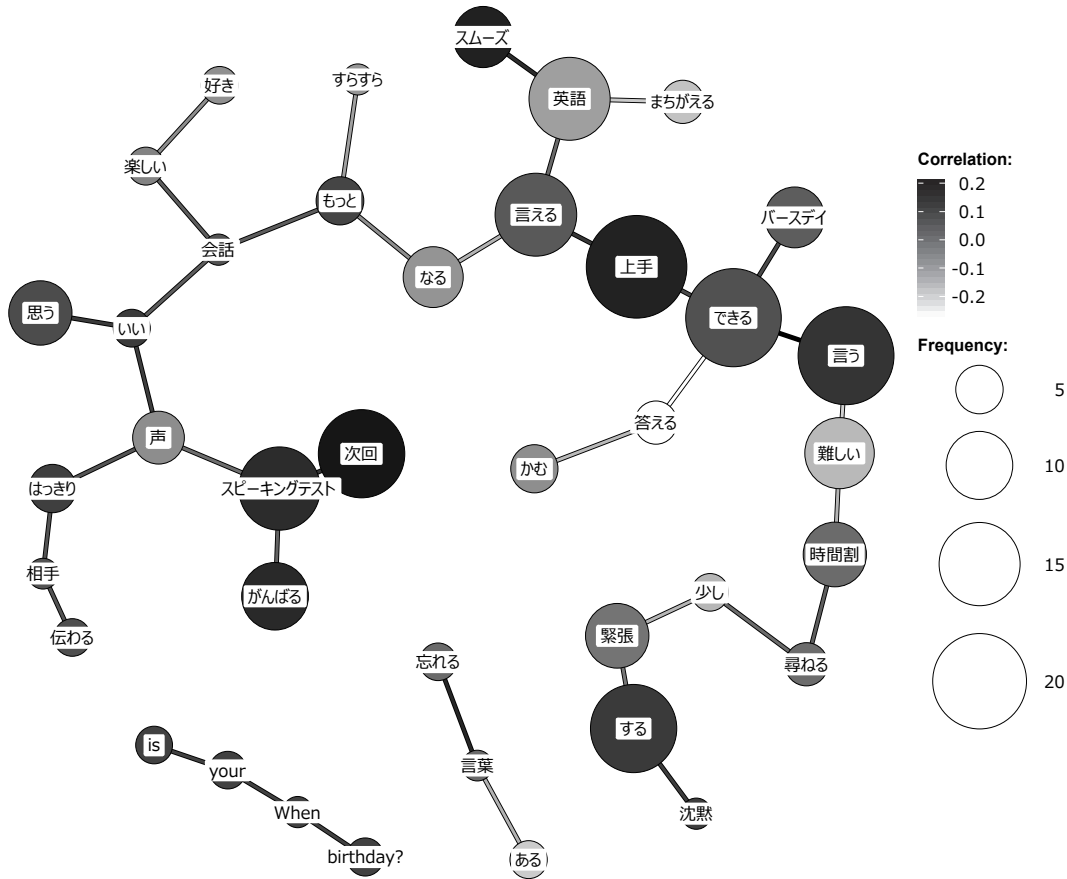


図5 「事後の感想」の最小スパニング・ツリー

読み取れる。難しいという心理からか、「少し緊張して、沈黙してしまった」とコメントした児童がいたことも読み取れた。「言葉をわすれた」というコメントも上記の頻度の高かった共起ネットワーク周辺にあり、課題の難度に応じて、スピーキングテストの時の心理状態が現れていると思われる。「時間割」では緊張したものの、「英語で上手にパーズデイを言うことができた」と思い通りに応答することができた成功体験から、「もっとすらすら言えるようになりたい」という積極性が掻き立てられ、「(英語での) 会話が楽しい、好き」という気持ちにつながるようである。そして、「次回のスピーキングテストをがんばる」、「次回は、声(言いたいことが)、はっきりと相手(面接官)に伝えたい」という気持ちが強く表れている。もう一つのデータである図2の観点別分布を見ても高いスコアである結果から、この2つのデータを併せて考えると、今回のスピーキングテストは単なる既習事項の知識と能力の定着と測る評価の機会だけでなく、児童の達成感や成就感を味わう機会となり今後の英語学習へのモチベーションを高める活動となったと推測でき、理想的な評価法と

なっている可能性がある。

5 まとめ

今回試みたスピーキングテストを妥当性、信頼性、実用性、波及効果の面から検討した。小学校外国語科で活用するスピーキングテストとして妥当性、信頼性、実用性が確保されていることが明らかとなった。また波及効果についても児童の今後の学習と英語によるコミュニケーションへの意欲向上に結び付く可能性を今回のデータは示した。今回のような評価の場を定期的を設定することは単に記録のための評価でなく、児童の学習を促進し、学習への意欲向上に寄与する可能性が示唆された。

謝辞

本研究の一部は、科学研究費基盤C 2015-2019 (課題番号 15K02742) の助成を受けている。研究協力校として、滑川市立田中小学校の関係者の皆様にご協力いただいたことに感謝の意を表す。

引用文献

(2020年10月20日受付)

アレン玉井光江 他 62 名 (2020) NEW HORIZON
Elementary English Course 5, 東京書籍

(2020年12月8日受理)

Bachman, L., & Palmer, A. S. (1996). *Language teaching in practice: Designing and developing useful language tests* (Vol.1). Oxford University Press.

Brown, H. D., & Abeywickrama, P. (2010). *Language assessment: Principles and classroom practices* (Vol. 10). White Plains, NY: Pearson Education.

Fulcher, G., & Davidson, F. (2007). *Language testing and assessment*. New York: Routledge.

Hughes, A. (2003). *Testing for language teachers*. Cambridge University Press.

岩下温美(2018)技能を伸ばす意欲を高める小学校外国語活動の指導: ルーブリックに基づくパフォーマンス評価を通して. *教育実践研究*, 28, 175-180.

笠原究・佐藤臨太郎(2017).『英語テスト作成の入門』金星堂.

小泉利恵・印南洋・深澤真(編)(2017).『実例でわかる 英語テスト作成ガイド』大修館書店

静哲人.(2002).『英語テスト作成の達人マニュアル.』大修館書店.

辰野千壽・石田恒好・北尾倫彦監(2006).『教育評価辞典』図書文化.

文部科学省. (2017b). 「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」.

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

Nation, I. S. P. (2013). *What should every EFL teacher know?*. Compass Publishing.

Plakans, L., & Gebril, A. (2015). *Assessment myths: Applying second language research to classroom teaching*. University of Michigan Press.

Underhill, N. (1987). *Testing spoken language: A handbook of oral testing techniques*. Cambridge University Press.

渡慶次正則. (2013). TOEFL iBT におけるスピーキング測定とライティング測定の妥当性, 信頼性, 実現性の検証

Appendix1

令和2年度(2020年度)「NEW HORIZON Elementary」(第5学年)

年間指導計画(単元一覧表)

月	単元名	時数	小単元名	学習指導要領の内容	教科書のページ
4	Unit 1 Hello, friends. ★他教科との関連: 社, 国, 総, 道	2	【SO】英語を聞いて、場面の順に□に番号を書こう。	(1)ア・イ・ウ・エ, (2)ア, (3)①ア(ア)(イ)・イ(ア)(イ)・ウ・エ(ア)(イ)・オ(ア), ②ア・イ, 3(1)ウ(2)(3)	10~11
		2	【YT】名前のつづりや好きなもの・ことをたずね合おう。		12~13
		2	【EC】名刺交換をしよう。		14~15
5	Unit 2 When is your birthday? ★他教科との関連: 社, 国, 総, 道	(2)	【OH】世界の名前について考えよう。台湾の友達と自己紹介をしよう。		16~17
		2	【SO】英語を聞いて、場面の順に□に番号を書こう。		18~19
		2	【YT】誕生日やほしいものについてたずね合おう。		20~21
6	Unit 3 What do you want to study? ★他教科との関連: 社, 国, 総, 道	2	【EC】パースデーカードをおくろう。		22~23
		(2)	【OH】世界の一年について考えよう。		24~25
		2	【SO】英語を聞いて、場面の順に□に番号を書こう。		26~27
7	Unit 4 He can bake bread well. ★他教科との関連: 社, 国, 総, 道	2	【YT】学びたい教科やなりたい職業についてたずね合おう。		28~29
		2	【EC】夢に近づく時間割を紹介しよう。	30~31	
		(2)	【OH】世界の授業について考えよう。台湾の友達と時間割を伝え合おう。	32~33	
9	Unit 5 Where is the post office? ★他教科との関連: 社, 国, 総, 道	2	Check Your Steps 1 外国の人に自己紹介をしよう	34~35	
		2	【SO】英語を聞いて、その場所や人を表す絵の順に□に番号を書こう。	38~39	
		2	【YT】あなたや身近な人のできること・できないことを紹介し合おう。	40~41	
10	Unit 6 What would you like? ★他教科との関連: 社, 国, 総, 道	2	【EC】身近な人紹介カードを作ろう。	42~43	
		(2)	【OH】世界の町で働く人々について考えよう。	44~45	
		2	【SO】英語を聞いて、行き先までの道順を書こう。	46~47	
11	Unit 7 Welcome to Japan. ★他教科との関連: 社, 国, 総, 道	2	【YT】どこにあるかをたずね合おう。	48~49	
		2	【EC】オリジナルタウンで道案内しよう。	50~51	
		(2)	【OH】世界の地図や標識について考えよう。	52~53	
12	Unit 8 Who is your hero? ★他教科との関連: 算, 家, 社, 国, 総, 道	2	【SO】英語を聞いて、場面の順に□に番号を書こう。	54~55	
		2	【YT】ていねいな表現で注文したり会計したりしよう。	56~57	
		2	【EC】ふるさとメニューを注文しよう。	58~59	
1	Unit 9 Check Your Steps 2 地域のおすすめを紹介しよう	(2)	【OH】世界の食文化について考えよう。日本料理と台湾料理を紹介し合おう。	60~61	
		2	地域のおすすめを紹介しよう	62~63	
		2	【SO】英語を聞いて、場面と話題の順に□に番号を書こう。	66~67	
2	Unit 10 Check Your Steps 3 「日本のすてき」を紹介しよう	2	【YT】日本の遊びや年中行事などについてたずね合おう。	68~69	
		2	【EC】日本の四季ポストカードを紹介しよう。	70~71	
		(2)	【OH】世界に広がる日本文化について考えよう。	72~73	
3	Unit 11 Check Your Steps 3 「日本のすてき」を紹介しよう	2	【SO】英語を聞いて、話題の順に□に番号を書こう。	74~75	
		2	【YT】日常生活やあこがれの人についてたずね合おう。	76~77	
		2	【EC】ヒーローを紹介しよう。	78~79	
3	Unit 12 Check Your Steps 3 「日本のすてき」を紹介しよう	(2)	【OH】日本生まれのヒーローについて考えよう。	80~81	
		2	台湾の友達に「日本のすてき」を紹介しよう。「台湾のすてき」を知ろう。	82~83	
合計		70			

(出典: NEW HORIZON Elementary English Course5 教師用指導書)

※SO...Starting Out YT...Your Turn EC...Enjoy Communication OH...Over the Horizon,

時数の(2)はカリキュラム・マネジメント対応の意

の4か所は、「海外交流学習」を指す。